

いまむらあやこ  
今村彩子さん

自分を映画の主演に 同行者は、自転車店  
したのは初めて。耳が で働く友人の堀田哲生  
聞こえない中でどう他 さん(41)。健聴者との  
人と付き合つか、模索 会話に気後れる今村  
しながら自転車で日本 さんに「耳が聞こえな  
を縦断した57日間を記 いことに甘えている」  
録した。「コミュニケ と叱咤(しった)し続  
ーションが苦手だった けた。時にぶつかり涙  
り、自分に自信が持て を流したが、それでも  
なかつたりする人に、 懸命にペダルをこぎ続  
また頑張ろうと思っ けた。



聴覚障害を乗り越え自転車で日本  
を縦断する映画を撮った

INTERVIEW

ひと

もらえたら」と話す。編集作業できれいに  
生まれつき両耳が聞 まとめないようにし、  
こえない。映画監督を ふがいない自分の姿を  
志して米国の大学で製 残した。「できなかった  
作方法を学び、ろう者 た」というのが旅の本  
や難聴者をテーマにド 質だったから。でも、  
キュメンタリーを撮っ スタートは何度でも切  
てきた。 れると分かった」。試写

旅のきつかけは、読 会では健聴者と難聴者  
み書きを教え社会との を問わず「自分と重ね  
懸け橋になつてくれた て見ってしまった」と共  
母の死。ショックで死 感の音が相次いだ。  
にたいときえ思った。 「旅を通して気負わ  
好きな自転車で旅し、 ず健聴者に話しかけよ  
心のどこかで避けてき うと思うようになった  
た健聴者とのコミュニ た」。今後は聴覚障害  
ケーションを見直せれ にとらわれず映画を撮  
ば、再び前向きに歩き るつもりだ。名古屋  
だせるかも。それを作 で父親と祖母、愛猫と  
品にしよう。題名は「S 暮らす。37歳。  
tart Line」。 (共同)